

はじめに

劇団プレイバックーズは1994年に創設され、横浜市を拠点にプレイバックシアターを世の中のために役立て、広め、深めることを目的に活動をしている。さまざまな分野での社会貢献を理念としているが、ここでは全国の小学校において2004年から2024年まで20年間にわたり継続している「演劇によるいじめ防止授業」を紹介する。この授業は、ニューヨークで活動するハドソンリバー・プレイバックシアターが実施しているプログラムを日本の小学校に合わせ、2020年から2024年の5年間では、のべ111校で実施された。

授業の概要

目的 いじめ防止授業の目的は、児童が、いじめによって友人が傷つくことを実感し、いじめの現場に遭遇したとき、傍観者になるのではなく、自分にできる行動をして、いじめを止めることができるようにすることである。

対象 この授業は小学校で実施している。授業の時間集中できること、劇を通して他者の気持ちを理解できることが必要になることから、発達 の程度を考慮し、4年生または5年生での実施を推奨している。

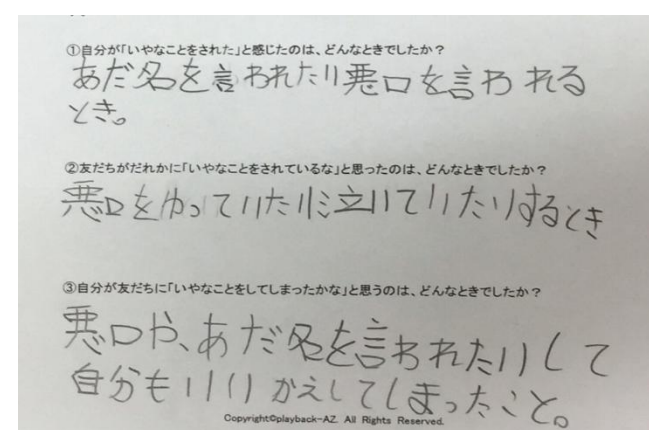
授業時間 90分(2時限分)

実施単位 クラスごと(20人～40人程度)

授業の紹介 この授業は、児童がいじめを止める行動をとれるようになるという目的のもと、プレイバックシアターを応用したものである。そのため、通常のプレイバックシアター公演とは異なる工夫や、段階づけがされている。プレイバックシアターを通して、友だちの心の中の景色を知り、他者の痛みなどの気持ちを感じる時間をつくる。その後、実生活でいじめを止められるようになるための行動を練習する。

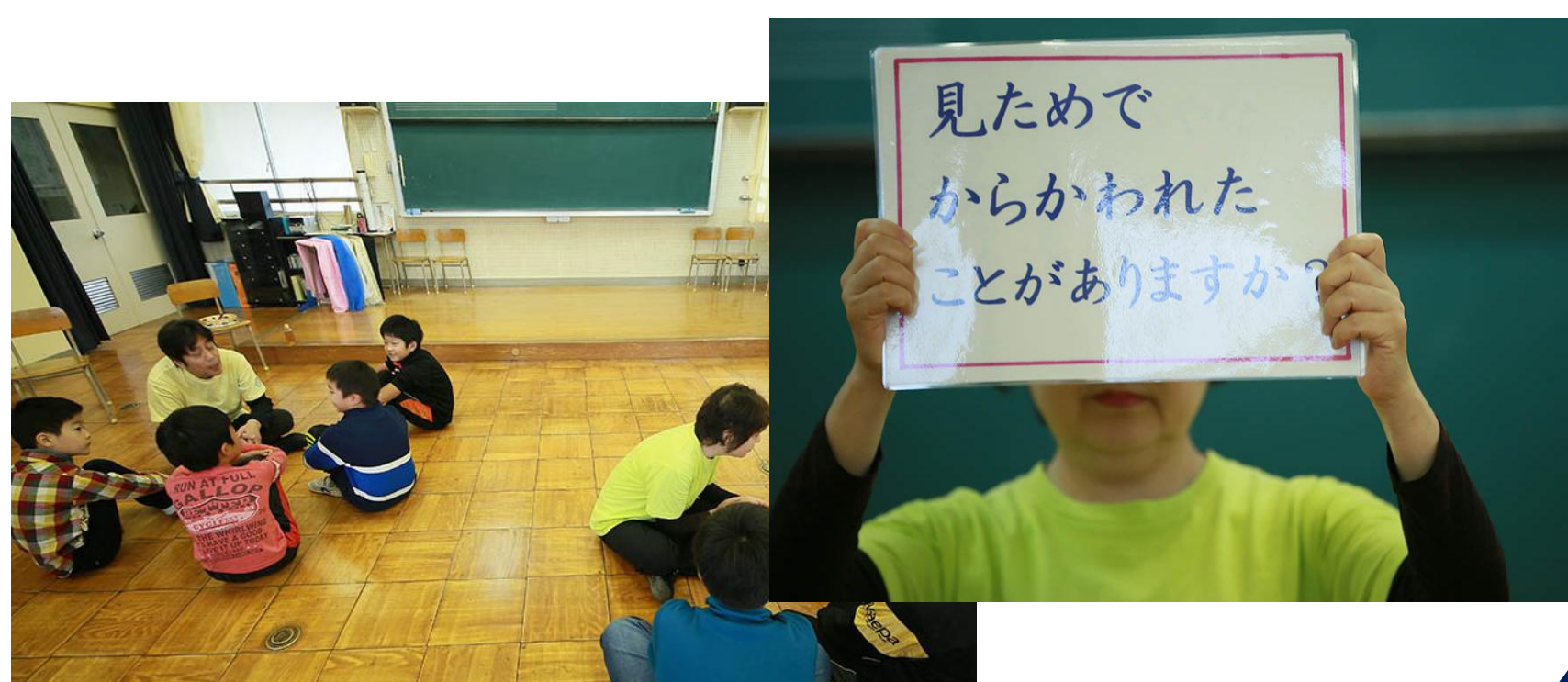
1. 授業前アンケート

授業前日までに、児童は事前アンケートを記入。これまでに嫌なことをされた体験、してしまった体験、誰かがされているのを見た体験を想起し、授業のための準備をする。



2. 導入

劇団の紹介や授業の目的を児童に伝える。その後、小グループに分かれ、これまでの体験を思い出して話す。



3. プレイバックシアター上演

子どもたちがテラー(語り手)になり、自分の体験を語り、劇団員がそれを上演する。



子どもたちが語るストーリーの例

- ・名前を変な風に変えてからかわれて悲しかった。
- ・相手はふざけているつもりだったが、首をしめられて怖かった。
- ・友達が物をとられていて、かわいそうと思った。
- ・同級生に仲間外れにされたが、別の友だちが助けてくれて嬉しかった。

6. 授業後アンケート

授業直後に、児童は事後アンケートを記入。「友だちの気持ちがわかったか?」「友だちを助ける方法がわかったか?」などの質問に回答しながら、授業を振り返る。

5. 行動宣言

「友だちを見捨てない」ために、4で練習した行動をやってみようと思えるかどうかを手を挙げたり、立ち上がったたりして確認し、未来の行動化につなげる。授業参加の印としてシールを渡す。



4. いじめを止める行動の練習

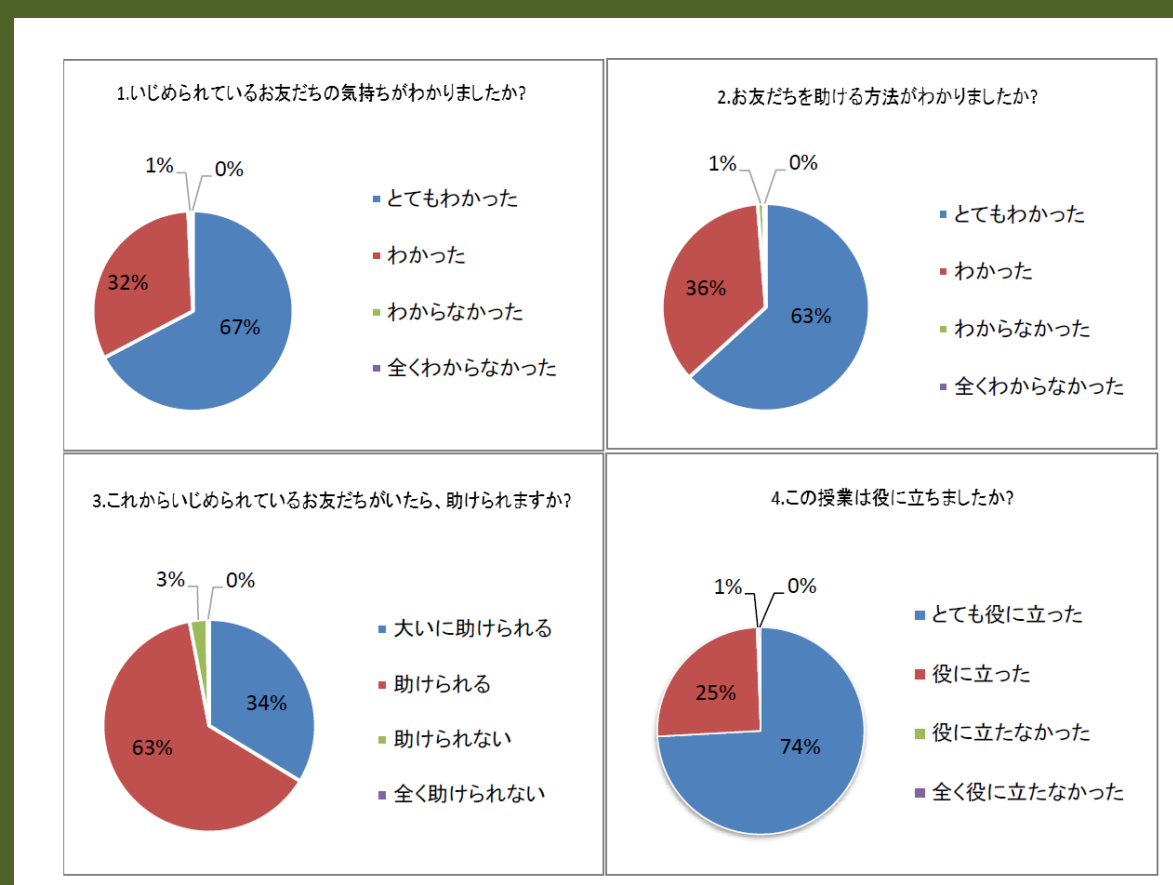
いじめを止めるための4つの方法を提示

- ・いじめている子に「やめなよ」という
- ・いじめの仲間に入らない
- ・大人に伝える
- ・いじめられている子と仲良くする

劇団員がいじめの現場を演じ、子どもたちはそれを止める行動を、その場に居合わせた子どもの役として練習する。



2024年度アンケート結果



運営の工夫

経費 この授業を各学校の経費負担が無く実施できるよう、助成金に応募をしていた。経費には劇団員の謝金、交通費、必要な場合は宿泊費が含まれる。経費が確保できることで、長期にわたる継続が可能となってきた。

実施チームとしての習熟 進行をつとめる講師と、その他の劇団員とが常に協力し合いながら進める。90分の限られた時間の中で、児童の反応を適切に引き出すため、パフォーマーの研鑽を行っている。

全国への広がり

劇団プレイバックーズが始めた授業をより多くの児童に届けるため、各地のプレイバックシアター劇団と協力しながら実践するかたちに変化してきた。2024年度は5団体がパートナーとして登録されている。各劇団のメンバーとプレイバックーズのメンバーが同じ舞台で協働して授業を行っている。



- ・プレイバックシアター・ピグマリオン
- ・劇団縁JOY
- ・プレイバック劇団With
- ・即興劇団ポラリス
- ・プレイバックシアターOnce



Photo by Atsushi Yamaguchi